

IHRA国際フォーラム 2025 開会挨拶

皆さま、おはようございます。国際高速鉄道協会(IHRA)理事長の宿利正史です。本日は、IHRA 国際フォーラム 2025 にご参加いただき、誠にありがとうございます。世界 13 カ国から多くの皆さまにお越しいただき、3 年振りの IHRA 国際フォーラムをこのように盛大に開催できることを、大変光栄に思います。

本日は大変ご多忙の中、ご来賓として、一昨日まで内閣総理大臣の激務についておられた石破茂様にご臨席を賜っており、この後ご挨拶を頂戴いたします。心より御礼申し上げます。

また、一昨日国土交通大臣に就任されたばかりの金子恭之(やすし)様からご挨拶をいただいております。重ねて御礼申し上げます。

国際高速鉄道協会(IHRA)は、新幹線開業 50 周年を迎えた 2014 年の 4 月に設立されました。IHRA 設立の目的は、世界で最も安全で信頼性の高い新幹線システムに関する情報や知見、経験の国際的な共有を通じて、安全かつ効率的な高速鉄道の世界的な発展に貢献することあります。IHRA は設立以来、理事、アドバイザリーボードの委員の皆様、正会員、準会員の皆様、日本政府、関係機関そして関係各国の皆様の温かいご支援・ご協力を得て、高速鉄道の導入に関心をもつ各国の政府及び議会関係者、鉄道関係者、メディアの皆様等との信頼関係を築きながら、11 年半にわたって地道に活動を続けてまいりました。今回で 5 回目となる IHRA 国際フォーラムをこのように開催できましたのも、ひとえに関係の皆様のご支援・ご協力の賜物であり、この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

さて、今年は、1825年に英国において鉄道が開業してから200年という記念すべき年に当たります。一方日本は、英国から遅れること47年、1872年に、英國の鉄道技術を英國の技師を通じて導入し、現在この国際会議場がある場所、当時は海でしたが、そこに「堤」を築き、その上に線路を敷設して、新橋と横浜の間に全長29kmの日本初の鉄道が開業しました。このような記念すべきタイミングと場所で、IHRAフォーラムを開催し、皆様をお迎えできましたことを、大変嬉しく思います。

ここで、今年のIHRAフォーラムについてお話する前に、これまでのIHRAフォーラムについて、少し振り返ってみたいと思います。

IHRAが設立された2014年10月に東京で開催された第1回IHRAフォーラムでは、オーストラリアの元副首相ティム・フィッシャー氏に特別講演を行っていただきました。この講演の中でティム・フィッシャー氏は、「第4代国鉄総裁、十河信二氏を「スティーブンソンの遺志を継ぐ新幹線の父」と讃え、「彼は新幹線の創造者として、世界のゲームチェンジャーとなつたのであり、それは産業革命にも匹敵するものだった。」と評価されました。1960年代初頭、高速道路と航空の急速な整備・発展の前に、都市間を結ぶ幹線交通としては陳腐化しつつあった世界の鉄道に対して、「高速鉄道」という新たな活路を切り拓き、その後、高速鉄道の導入が世界の潮流となつたことは皆様ご承知のとおりです。

第2回IHRAフォーラムは2016年11月に京都で開催し、高速鉄道によって経済・社会そして人々のライフスタイルを変革し、国や地域を大きく創りえるためには、高速鉄道を真に社会に

活かすための長期間にわたる、絶え間のない「変革への挑戦」が必要である、というテーマについて多角的に議論を行いました。

2018年11月に福岡で開催した第3回IHRAフォーラムでは、「複雑さを増す世界情勢と変革への挑戦」をテーマとして、インド太平洋地域の将来を展望しつつ、普遍的な課題である「変革への挑戦」についてさらに議論を深めました。

第4回IHRAフォーラムは、2020年10月に開催する予定でしたが、新型コロナウイルスのパンデミックにより開催延期を余儀なくされ、2年後の2022年10月に名古屋で開催されました。「混迷の時代のその先へ～高速鉄道と共に切り拓く新たな世界～」をテーマに議論を行い、世界中で長期間に及ぶ移動の自由の制限に直面する中で、人と人が対面で出会うことの喜びや価値を再認識し、高速鉄道によって、多様な人ととの出会いが生まれ、そこに未来を創造する innovation が生まれる可能性を共有しました。

さて、今回の第5回IHRAフォーラムのテーマは、「高速鉄道と描く未来の風景～より良い明日(あす)への架け橋～」です。開催地であるこの高輪は、1603年から265年間続いた江戸時代には、現在の東京と京都を結ぶ東海道の「江戸の玄関口」と呼ばれており、また、先ほど申し上げましたとおり 1872年に日本初の鉄道が開業した土地でもあります。「高輪ゲートウェイシティ」のまちづくりを進めるなかで、153年前の鉄道開業時に使用されていた「築堤」が初めて良好な状態で出土したことは大きな話題となりました。これらの遺構は現在 JR 東日本により丁寧に保存され、今後その一部が公開される予定です。

またこの品川・高輪エリアでは、現在鉄道整備とまちづくりが一体的に進められつつあります。かつてこのエリアには大規模な鉄道車両基地が存在しておりましたが、近年、車両基地と鉄道ネットワークの再編、運行体系の見直しなどによって、約 13 ヘクタールもの広大な土地が生まれ、再開発が進みつつあります。

かつて「江戸の玄関口」であったこの地は、今まさに、「未来への玄関口」へと生まれ変わろうとしています。高輪に隣接する品川にはリニア中央新幹線の始発駅が設けられ、また東京メトロの新線が整備される予定であり、羽田空港へのアクセスにも優れたこのエリアでは、世界への新たなゲートウェイを目指したまちづくりが進みつつあります。この新たなゲートウェイで、皆様と共に「高速鉄道と描く未来の風景」を語り合い、「より良い明日（あす）への架け橋」を築くための議論を深めていきたいと思います。

本日は、4つのセッションを通じて議論を深めます。

まず、セッション1では「世界は今、高速鉄道に何を期待するか（英題“*What the World Expects in Reliable Rapid Connectivity for Global Growth*”）」をテーマとします。

またセッション2では「鉄道整備と沿線都市開発の一体的推進（英題：*Shaping the Future Together: Railway and Urban Development*）」をテーマとします。

続いてセッション3では「各国の高速鉄道プロジェクトの現在地と今後の展望（英題：Present State and Future

Outlook of HSR projects)」をテーマとします。

最後のセッション4のテーマは「高速鉄道の進化を支える技術と人材（英題：Driving the Evolution of HSR: Technology and Talent）」です。

そして、本日の会議終了後のグランドレセプションは、「八芳園」に場所を移し、美しい日本庭園と多彩な日本料理を大いにお楽しみいただきたいと思います。

今から61年前の1964年に開業した日本の新幹線は、今や全国に3,300km以上の高速鉄道ネットワークを形成し、さらに現在、品川・名古屋間の超電導リニア新幹線及び北海道新幹線が建設中であり、その他の整備計画路線を含めて、新たに4路線、計約850kmの高速鉄道ネットワークの整備が予定されています。「新幹線」に代表される安全で信頼性の高い高速鉄道は、国際的な公共財であると私たちは考えています。そして、その価値は国境を越えて広く共有されるべきものです。私は、安全で信頼性の高い高速鉄道の国際展開を通じて、世界のさらなる発展に貢献することこそが、IHRAの活動の本質であると考えております。

最後に、本日から3日間にわたるIHRA国際フォーラム2025を通じて、多くの新たな出会いと交流が生まれ、いずれかの日にかinnovationにつながることを祈念いたします。

本日ご出席いただきました多くの皆様に対し、改めて心から感謝申し上げ、私の開会のご挨拶とさせていただきます。